



広報

なま 市民の友

第616号 毎月1回発行
2002年(平成14年)

5月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷(協)丸正印刷

みんなのラジオ
...ラジオ広報...

「那覇市民の時間」毎週土曜日
RBC 午後4時30分から40分まで

那覇市
ホームページ
http://www.city.naha.okinawa.jp/



鳴子とパーランクーで舞セッション

主な紙面

- (2面) 指定「み袋制」スタート
- (3面) 波の上ビーチ・海びらき
- (4面・5面) 尚王家継承文化遺産が国重要文化財に
- (6面) 那覇港管理組合を設立
- (7面) 情報PACK

その若者たちはある想いを抱いていた。「ぼくたちのエネルギーを活かして今できることをやりたい」と。そして、考えた。「人がつながるきっかけをつくらう。自分を、まちを元気にしていこう」と。そんな想いで結成された「地域活性化協力隊 We love Okinawa」の「祭り」企画が昨年、ボランティア国際年記念事業に選定された。実施までのさまざまなシーンでスタッフ、ボランティア、地域、踊り手、観客、それぞれのお出合いが混ざりあっていた。さらには沖縄と高知、パーランクーと鳴子も混ぜ合わされた。「第一回もれもれチャンプルー祭り」(3月24日)は県内から14団体と7アーティスト、高知県から2団体の総勢約600人が参加。会場はバレットくもじ前広場、緑ヶ丘公園、平和通り・サンライズなどは通り。

「ハイヤ」と太鼓、パーランクーを打ち鳴らして勇壮に舞うエイサー。鳴子を手に「ほにやよさこい 踊らにやそんそん」と現代風アレンジのよさこいで軽快に舞う土佐っ子たち。

フィナーレは演舞者全員でのカチャーシーとなった。降りそそぐ雨は花吹雪、北風は熱風と化した。踊りの波は待ちかねた観衆をも呑み込んで脹れ上がり、土佐の渦潮となつて乱舞した。



支店の視点③

ゆきもとしょうじ
雪元章司
(農林中央金庫 那覇支店長)

1958年(昭和33年)生まれ。鹿児島市生まれの大分市育ち。入社後、東京本店のほか、青森、金沢、大阪の各支店で勤務。那覇支店には2001年7月に着任。那覇支店の業務は、地元農林漁業の協同組合の業務のバックアップ、地元企業への融資、農林債券や投資信託の顧客向け販売など。

農林中央金庫那覇支店
(松山1-2-12)

「沖縄の歴史と文化がたまたま、南島の匂いと活気に満ちあふれた、深く熱く濃い街、那覇のまち」。

これは那覇市と那覇市観光協会が作成・配布している観光ガイドブック「那覇の旅」の見開きに大きく書かれているメッセージです。

三月末に沖縄通りに那覇市観光案内所がオープンしたと聞き、早速出向いてみましたが、今年もまた、たくさんの観光客をお迎えしよう、スタッフの皆さんがはりきっておられました。

那覇市の観光資源はとても豊富です。首里城・識名園・公設市場などの名所旧跡、やちむん・紅型などの工芸関連施設、大綱挽き・ハーリー・マラソンなどのビッグイベント、多彩な飲食店、そして琉舞・民謡・ジャズ・演劇などの幅広い芸能。皆さんが暮らしているこの街には、途方もない魅力があるのです。

けれども、考えてみますと、「もう一度那覇に行きたい」という人たちの印象や想い出は、こうした「定番コース」を訪れることだけで形づくられていくわけではありません。

このような街の雰囲気や具体的に宣伝するのはなかなか難しいのでしようが、とにかく、市民の皆さんの「健やかな日常」も貴重な観光資源にちがひありません。

市政には引き続き、この街の笑顔を絶やさないうよう、頑張っと思っています。



「沖縄は美味がいっぱい。スーチャーや島らっきょうで一杯やるのがたまらない」と雪元支店長

本庁市民課・国民健康保険課の窓口は毎日午後6時まで開いています。(土・日、祝日を除く)